

## 『Googleとルパン三世とゲゲゲの鬼太郎とテクアの入社試験』の関係

さて、いきなり問題です。

【問題】あなたの身長は10円玉の大きさに縮められて、ミキサーの中に入れられました。もとの密度を保ったまま、あなたの質量は小さくなります。ミキサーの刃はあと60秒で動き出します。さて、どうする？

↑このわけの分からないクイズ、実はグーグルの入社試験問題だそうです。凄いですね。

その他にも、『1台のスクールバスにゴルフボールは一体何個入るか？』なんて言う、実際に挑戦してみたくなるような出題も実際にあったようです。さすがグーグルですね！

そこで、テクアの入社試験問題を考えてみました。↓これです。



『ルパン三世』と『ゲゲゲの鬼太郎』はどちらが保全マンに向いているか？その理由を述べよ。

どうですか？なかなかの難問だと思いませんか？

しかしながら、この難問は安全マンの常識、『止める、呼ぶ、待つ』の観点から見ると、解けていきます。

以前、登山家 野口健さんのお話をしたことがあります。野口健さんはヒマラヤ登頂に出かける際、必ず女性用の香水のビンを持っていきます。なぜなら、登山家という生き物は、困難が発生すればするほど、それに挑戦したくなり、気づいたころには悪天候だろうが、吹雪だろうが、後には引けず、頂上を目指してしまう、視野が狭く、判断力を失っている自分がいる。そんな時、ちょっと待てよと、用意してきた香水を取り出してクンクンと匂いをかぐことで、ホッと肩の力が抜け、『野口、帰ってらっしゃいよ！！』という声が聞こえてき、冷静な判断が戻ってくるらしいのです。

つまり、野口健さんの香水のビンのような、『止める、呼ぶ、待つ』を、ルパンと鬼太郎のどちらが持っているかを考えることで答えが導き出せます。

まずはルパン三世を見ていきます。ルパン三世を職人にしたら、超有能な職人になると思います。どんなトラブルにもくじけな、目標を決してあきらめず、困難を突破していくタイプでしょう。しかしながら、『安全』の世界では、それゆえに怖いと思います。張りめぐられた赤外線センサーを一本一本クリアしていくゲームとしてトラブルを乗り越えてきたがる有能な職人が、実は1番取り返しのつかない大きなミスを犯してしまう可能性が高いからです。ヒマラヤの吹雪でも決して引き返さない自信と勇敢さゆえの遭難の可能性。これがルパン三世の持つ強みでもあり、弱みでもあります。

では、鬼太郎はどうでしょうか？そうです。鬼太郎には、百戦錬磨、経験豊富、冷静沈着で温泉好きな目玉の親父さんがくっついてます。

『鬼太郎、いったんもめんを呼べ！』が『止める、呼ぶ、待つ』に相当します。

とても弱っちいのですが、どんなピンチのときにも第三者的的確で老獪な意見を目玉の親父さんからもらえると、鬼太郎の安全マンとしての安心して任せられるポイントです。

したがって、『保全マンに向いているのはゲゲゲの鬼太郎。』ここまで書けたら、テクア入社試験合格です！

感謝！ 羽原篤史



P. S. え、ルパン三世だって、フ〜ジ子ちゃんが現れたら引き返すに違いないって？それは違います。

フ〜ジ子ちゃんは赤外線センサーを潜り抜けて、見事、宝石を手に入れたルパンしか相手にしませんから。フ〜ジ子ちゃんはルパンに『早くしなさい！』『完璧にやりなさい！』『私を喜ばせなさい！』という無言のメッセージを送り続け、ルパンを駆り立てていきます。ですからルパンはついつい無理して頑張ってしまう。こういう、何かに駆り立てられた行動を心理学用語で『ドライバー行動』と呼ぶみたいです。いつもなぜか現場で焦ってしまう、相手にカッカッてしまう、作業が強引になってプーリー割ってしまう、そんなあなたは幼いころに、何らかのドライバーを授かっている可能性があります。意外と優秀な人に多いとも言われています。

現場でだんだん自分にドライブがかかってきたと感じたら、目玉の親父さんの物まねで、『鬼太郎、いったんもめんを呼べ！』とつぶやいてみてください(笑)。アクセルがルパンでブレーキが鬼太郎。アクセルよりもブレーキを優先させるのが『フェールセーフ』の考え方。安全の世界の鉄則です。



安全の世界から離れたら、理想を常に追い求めるルパン三世の世界が大好きです。映画『カリオストロの城』はビデオが擦り切れるほど何度も繰り返して観てました。1番好きな映画、ベスト1です。